

# 博物館 アラカルト ⑧

## ●福山城西三之丸の歴史

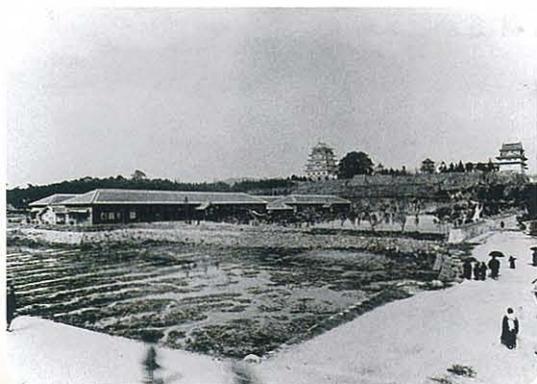
現在博物館のある場所は、江戸時代には福山城三之丸の西側（以下、西三之丸と表記します）にあたり、正保年間（1644～1648）の福山城絵図によると、福山城を創建した藩主水野勝成の隠居屋敷になっていました。貞享元年（1684）の絵図には、筆頭家老水野玄蕃屋敷とあり、元禄11年（1698）に水野氏が断絶した後の松平忠雅の治世（1700～1710）には、筆頭家老山田主水の屋敷、続く阿部氏の治世では、城代家老佐原氏の屋敷となっていました。このように、江戸時代を通じて西三之丸は福山藩政において重要な場所でした。昭和60・61年（1985・86）に博物館建設部分を広島県草戸千軒町遺跡調査研究所が発掘調査した際には、西御門の番所跡や家老屋敷の築地堀跡及び園池跡などが見つかっています。

近代以降、西三之丸には福山女子尋常小学校（福山市立西小学校の前身）や福山女子高等小学校が置かれ、教育の場となります。明治39年（1906）には町立福山女学校が設立され、明治42年に町立福山高等女学校と改称、大正2年（1913）には広島県に移管し、広島県立福山高等女学校と改称します。同校は現在の広島県立福山葦陽高等学校の前身で、昭和57年（1982）に葦陽高校が久松台へ移転するまで、西三之丸は福山地域の中等教育の一翼を担い続けて来ました。

昭和56年の「県立博物館建設基本構想」において、県立歴史博物館を葦陽高校跡地に建設することが答申されました。昭和58年、花園町から草戸千軒町遺跡調査研究所が移転、昭和61年には研究所内に博物館開設準備室が設置されました。博物館の建設は昭和62年7月に始まり、平成元年（1989）3月に建物が竣工、4月に研究所旧庁舎（葦陽高校旧校舎）が解体撤去されました。この間、昭和63年には、ふくやま美術館が開館しています。そして、平成元年11月3日、広島県立歴史博物館が開館し今日に至っています。

このように西三之丸は福山城築城以来約380年の間、福山における藩政、学校教育、そして歴史文化の一拠点として、その時代に応じた役割を果たしてきました。博物館の敷地内にある復元した家老屋敷の園池の水路や、南西角にある福山高等女学校・葦陽高等学校の記念碑が、西三之丸の歴史を現在に伝えています。

（主任学芸員 西村直城）



初期の福山高等女学校  
（広島県立福山葦陽高等学校・広島県福山葦陽同窓会蔵）



建設中の博物館と葦陽高校旧校舎